

第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第1項 健康に暮らすことができるようにします

めざしたい将来像：

自らの健康に関心を持ち、社会参加することを通して、一人ひとりが目的を持った生きがいのある暮らしを生み出します。

《指標》

生きがい感を持っている人の割合

(1) 指標の説明

生涯にわたり、その意欲や能力に応じて地域活動や就労等の社会参加の機会をもち、年齢や身体状況に係わりなく、いつでも心のはりや生きがいを持ち続ける人を把握するため、生きがい感を持っている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度（認知）」

Q3 あなたは日頃、生活の中で生きがいを感じていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 大変感じている | 3 ある程度感じている | 5 ほとんど感じていない |
| 2 かなり感じている | 4 あまり感じていない | |

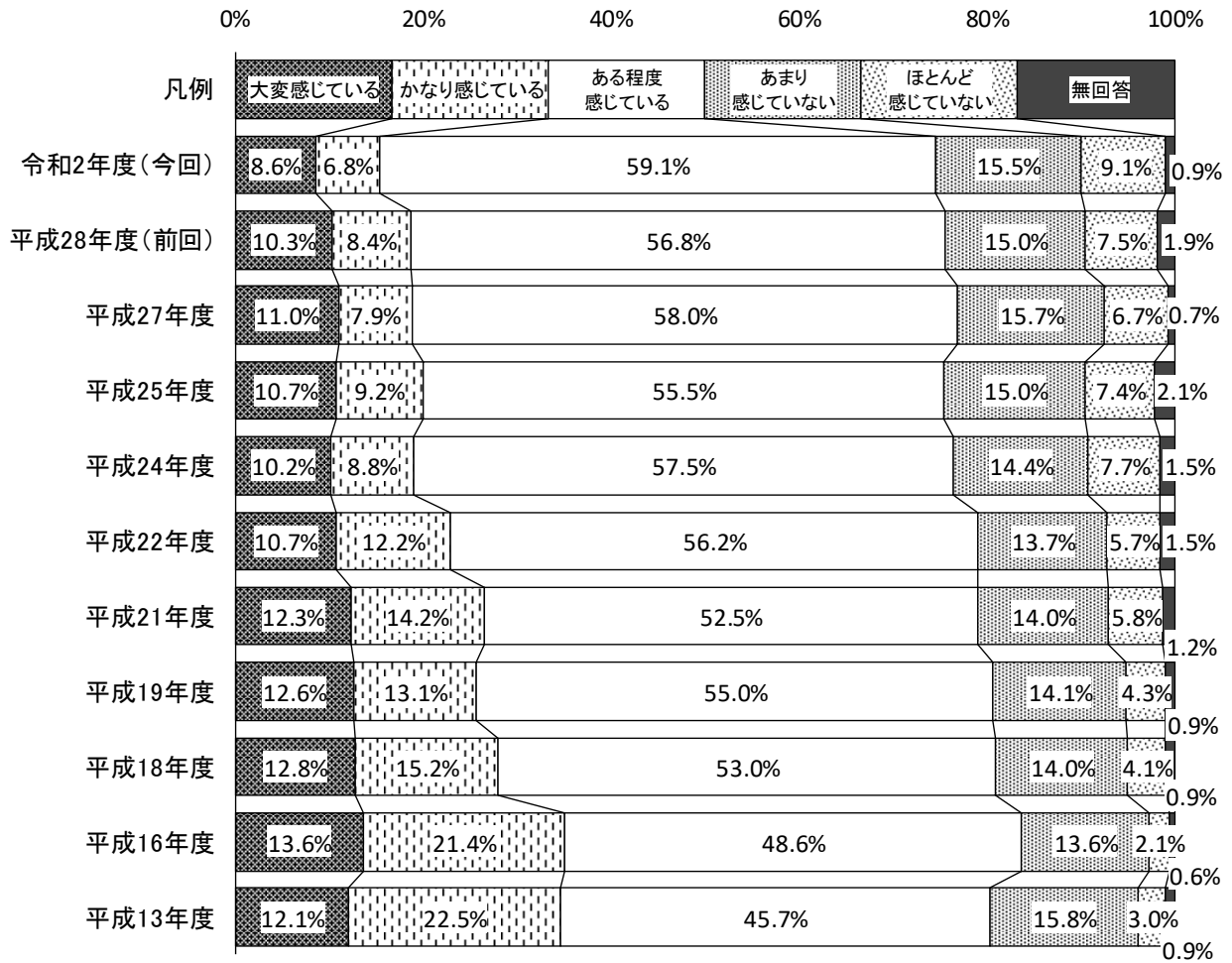
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
大変感じている	12.1%	13.6%	12.8%	12.6%	12.3%	10.7%	10.2%	10.7%	11.0%	10.3%	8.6%
かなり感じている	22.5%	21.4%	15.2%	13.1%	14.2%	12.2%	8.8%	9.2%	7.9%	8.4%	6.8%
ある程度感じている	45.7%	48.6%	53.0%	55.0%	52.5%	56.2%	57.5%	55.5%	58.0%	56.8%	59.1%
計	80.3%	83.6%	81.0%	80.7%	79.0%	79.1%	76.5%	75.4%	76.9%	75.5%	74.5%

(4) 指標の分析

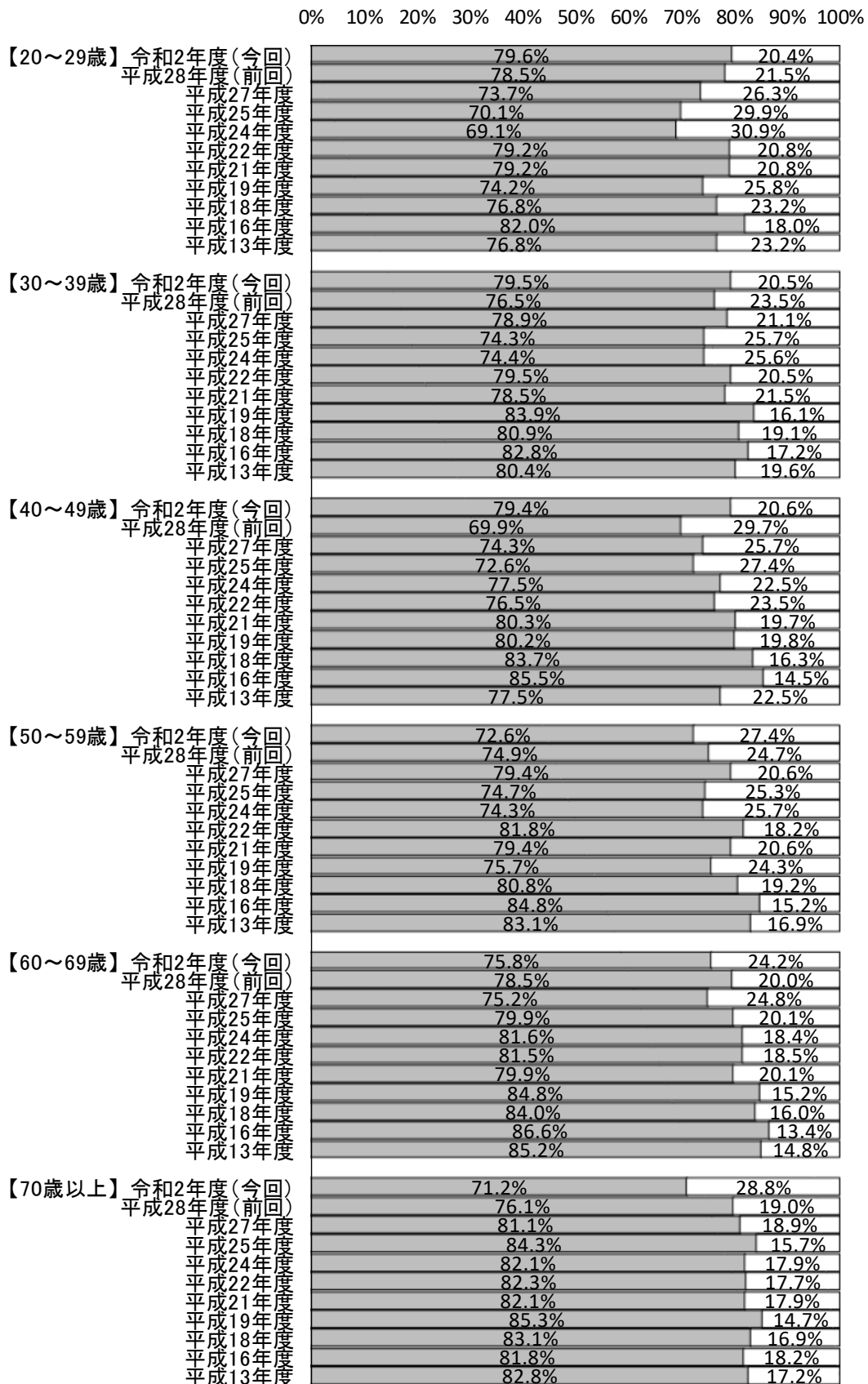
☆生活の中で生きがいを感じている人は7割半ばとなっています

生活の中での生きがいについて、「大変感じている」、「かなり感じている」、「ある程度感じている」を合わせた『生きがいを感じている』(74.5%)と答えた方は7割半ばとなっており、平成28年度調査と同様の傾向を示しています。



<生きがい感×年齢別>

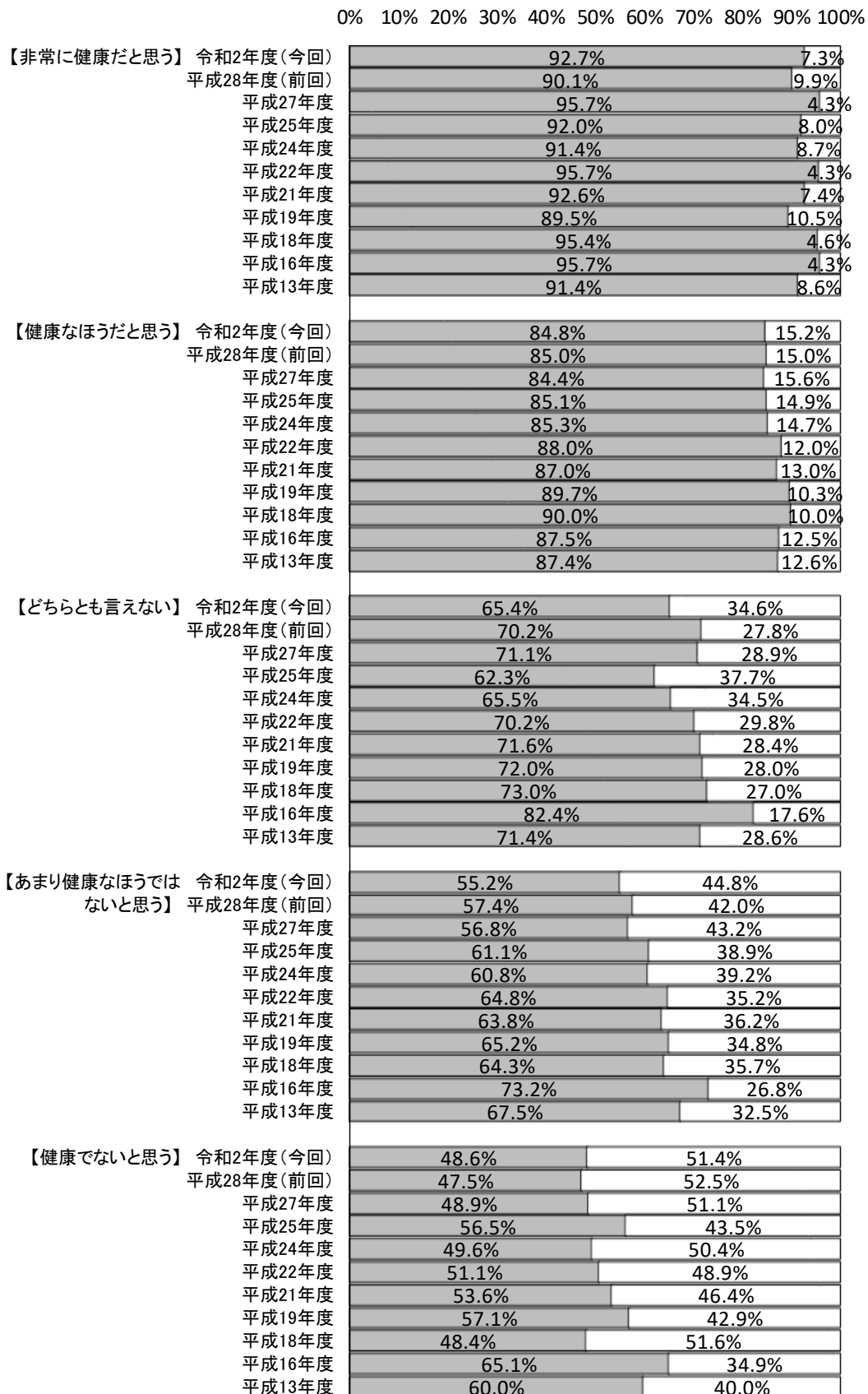
年齢別でみると、『生きがいを感じている』は“20～29歳”（79.6%）で最も高く、次いで“30～39歳”（79.5%）となっており、全ての年代で7割台となっています。また、『生きがいを感じている』は平成28年度調査と比べて“40～49歳”で9.5ポイント増加しています。



■「大変感じている」と「かなり感じている」と「ある程度感じている」の合計比率
 □「あまり感じていない」と「ほとんど感じていない」の合計比率

<生きがい感×本人の健康感別>

本人の健康感別でみると、『生きがいを感じている』は健康状況が良くなるにつれて割合が高くなっており、“非常に健康だと思う”（92.7%）と答えた方で最も高くなっています。一方、“健康でないと思う”（48.6%）と答えた方では5割未満にとどまっています。

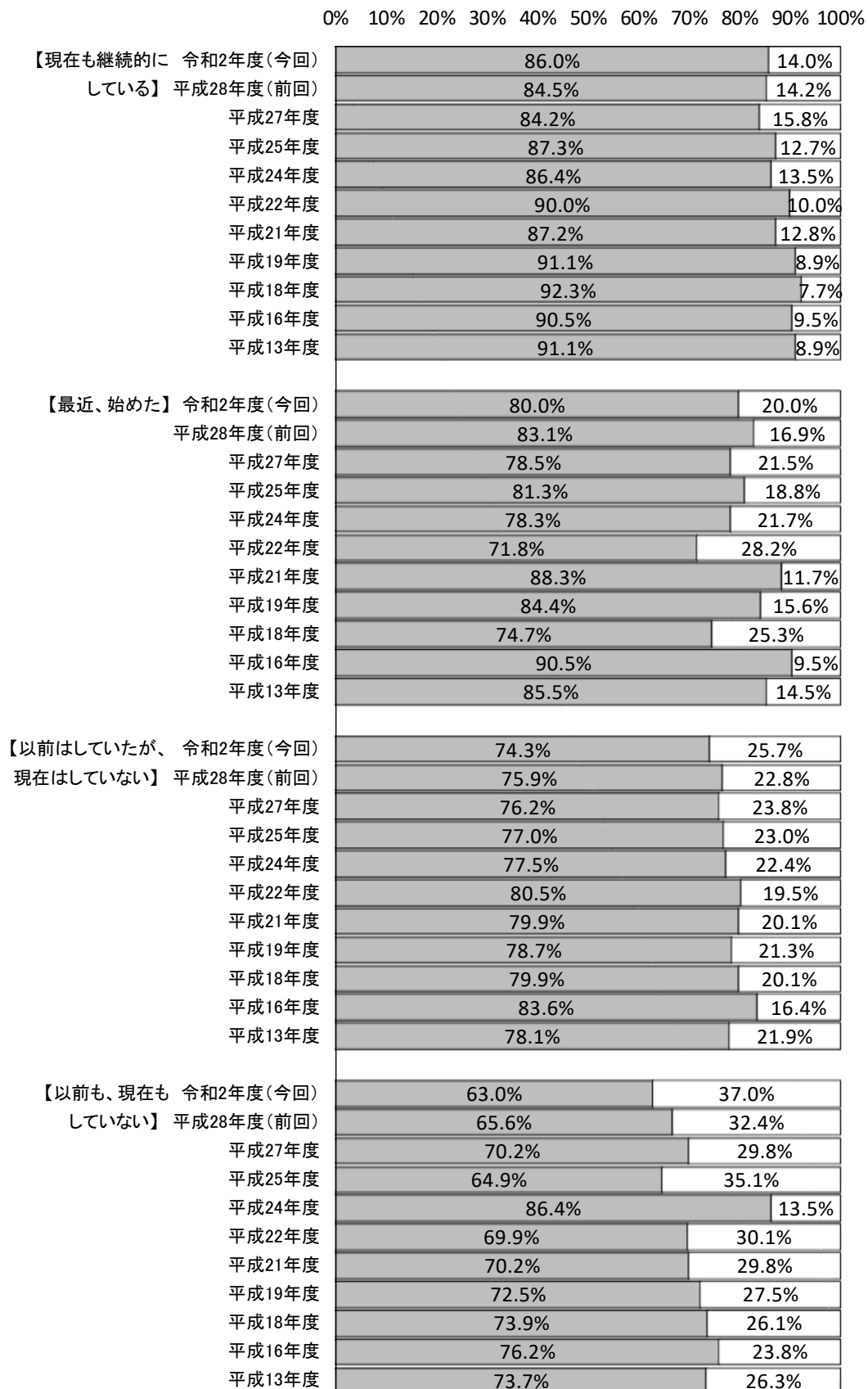


■「大変感じている」と「かなり感じている」と「ある程度感じている」の合計比率

□「あまり感じていない」と「ほとんど感じていない」の合計比率

<生きがい感×スポーツの実施状況別>

スポーツの実施状況別でみると、『生きがいを感じている』は“現在も継続的にスポーツをしている”（86.0%）と答えた方で最も高くなっています。一方、“以前も現在もスポーツをしていない”（63.0%）と答えた方では6割を超える程度にとどまっています。



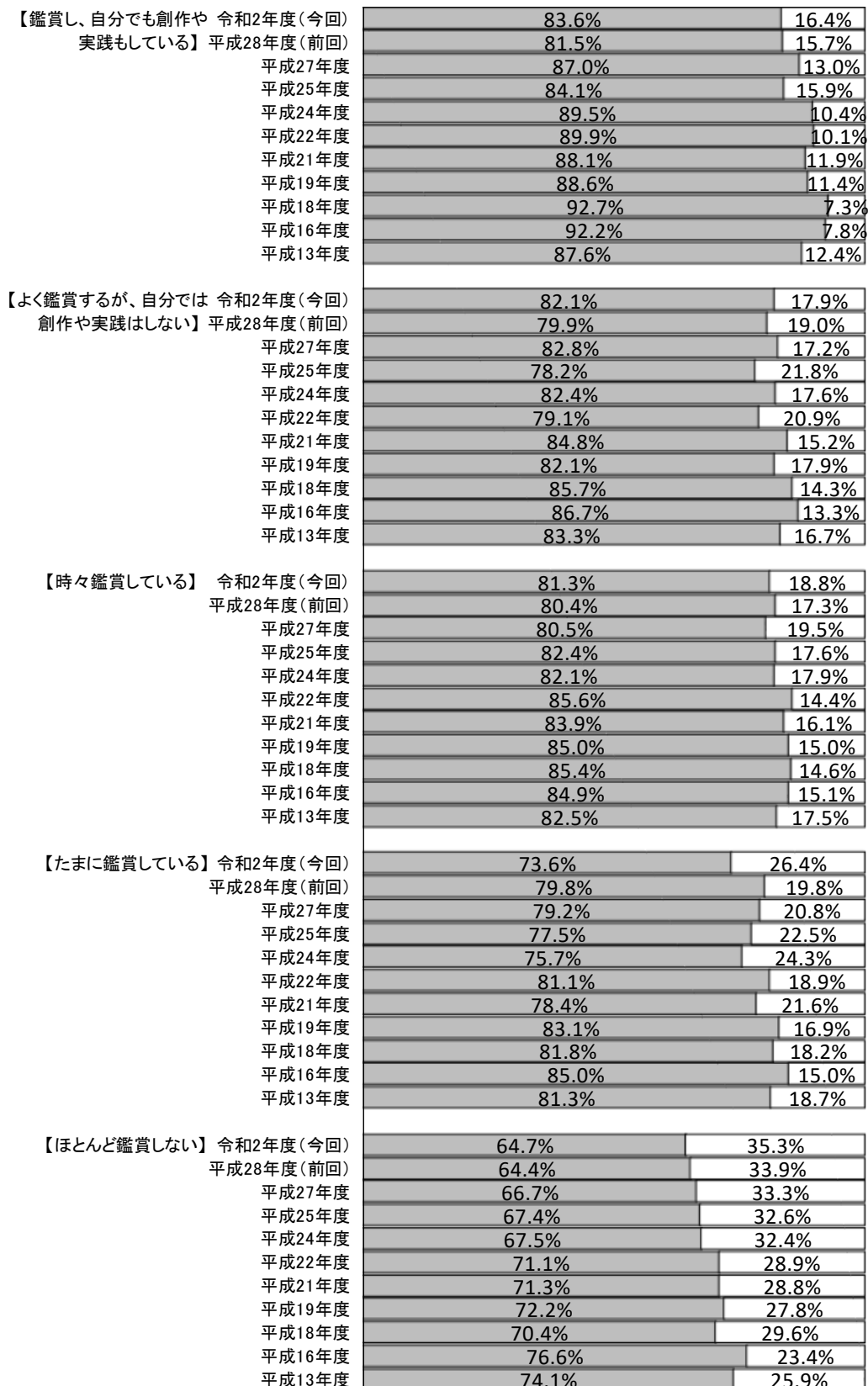
■「大変感じている」と「かなり感じている」と「ある程度感じている」の合計比率

□「あまり感じていない」と「ほとんど感じていない」の合計比率

<生きがい感×芸術文化の実施状況別>

芸術文化の実施状況別でみると、『生きがいを感じている』は実施頻度が高くなるにつれて割合が高くなっており、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”（83.6%）と答えた方で最も高くなっています。一方、“ほとんど鑑賞しない”（64.7%）と答えた方では6割半ば程度にとどまっています。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■「大変感じている」と「かなり感じている」と「ある程度感じている」の合計比率
 □「あまり感じていない」と「ほとんど感じていない」の合計比率

《指標》

本人が健康であると思う人の割合

(1) 指標の説明

健康は、あらゆる社会活動と市民生活の基盤であり、病気や障害を持つことになっても、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れることが必要となります。そこで、本人が健康であると思う人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度（認知）」

Q4 あなたは今、健康だと思いますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|-------------------|------------|
| 1 非常に健康だと思う | 3 どちらとも言えない | 5 健康でないと思う |
| 2 健康なほうだと思う | 4 あまり健康なほうではないと思う | |

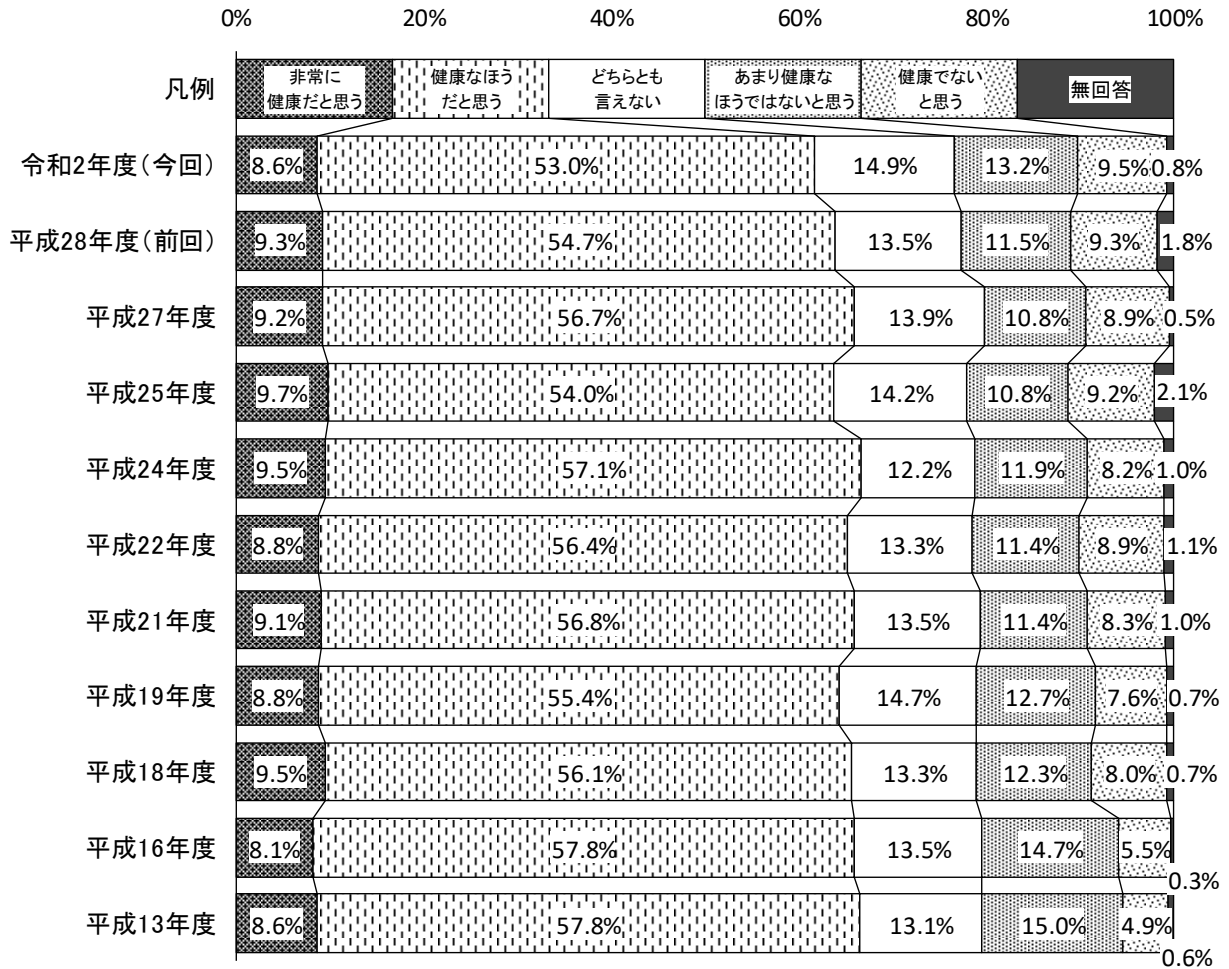
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
非常に健康だと思う	8.6%	8.1%	9.5%	8.8%	9.1%	8.8%	9.5%	9.7%	9.2%	9.3%	8.6%
健康なほうだと思う	57.8%	57.8%	56.1%	55.4%	56.8%	56.4%	57.1%	54.0%	56.7%	54.7%	53.0%
計	66.4%	65.9%	65.7%	64.3%	65.9%	65.2%	66.6%	63.6%	65.9%	63.9%	61.6%

(4) 指標の分析

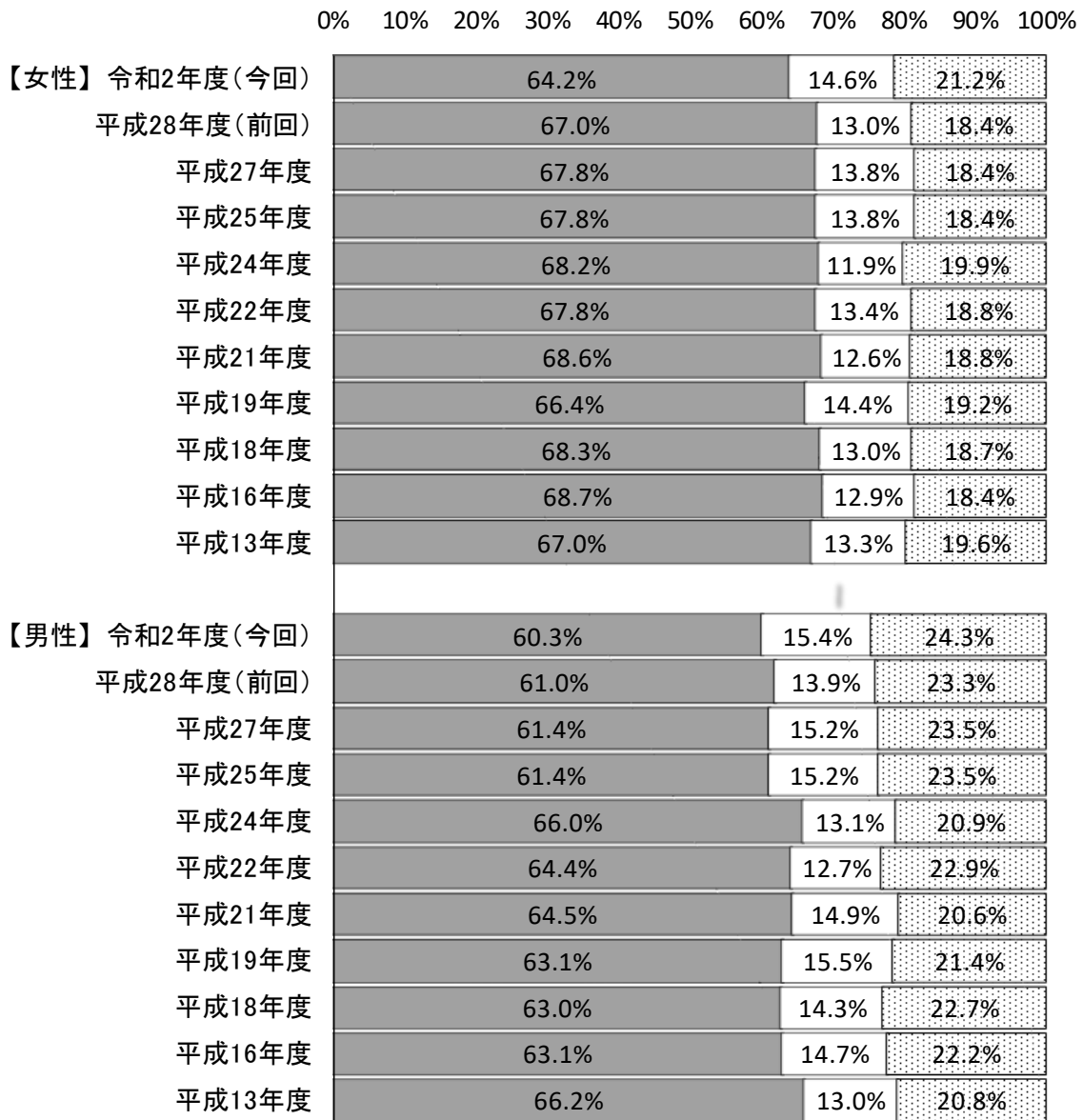
☆健康だと思う人は約6割となっています

主観的な自身の健康感をみると、「非常に健康だと思う」、「健康なほうだと思う」を合わせた『健康だと思う』(61.6%)と答えた方は約6割となっており、平成28年度調査と同様の傾向を示しています。



<健康感×性別>

性別でみると、『健康だと思う』は“女性”（64.2%）が“男性”（60.3%）より高くなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



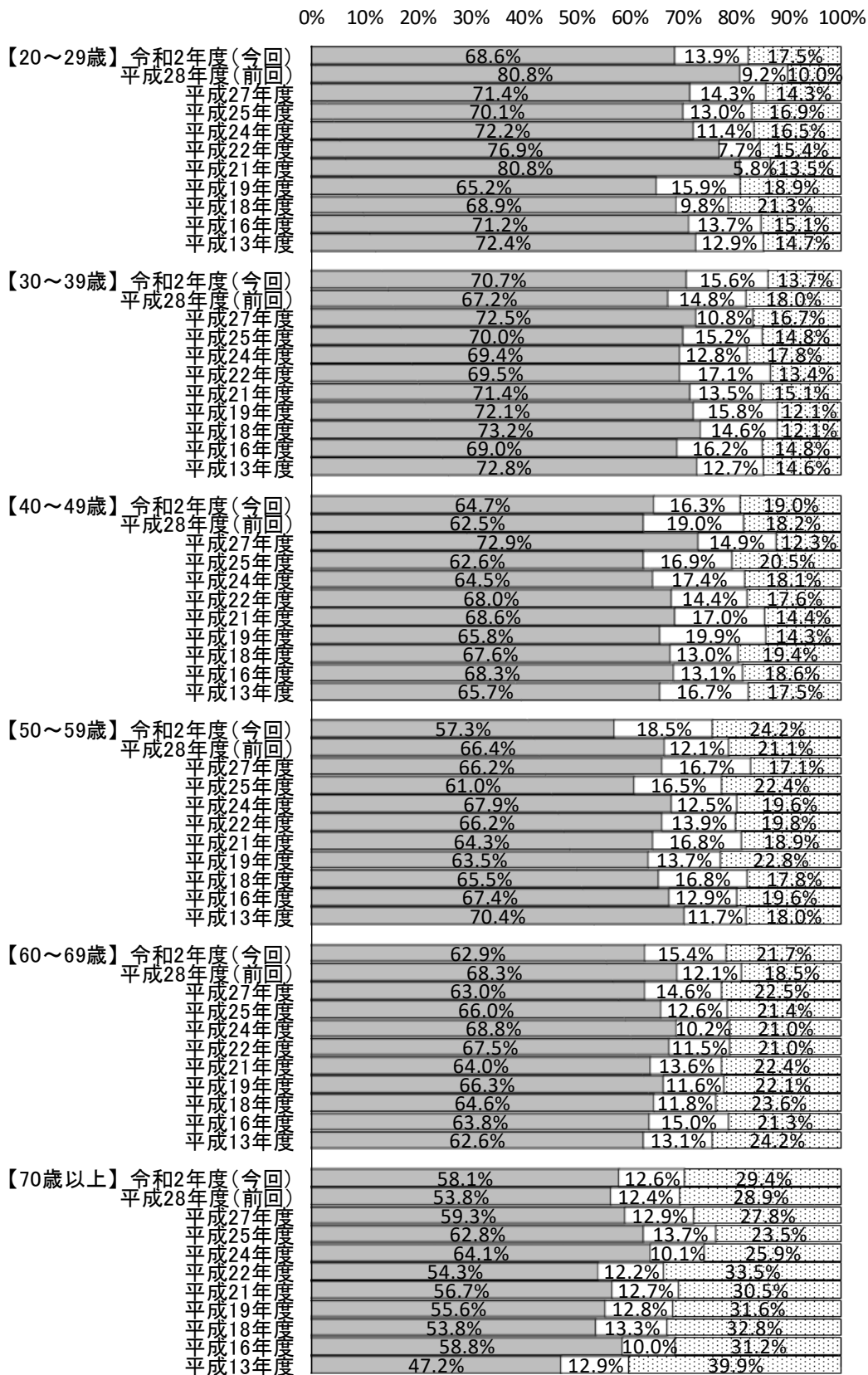
■「非常に健康だと思う」と「健康なほうだと思う」の合計比率

□「どちらとも言えない」の比率

■「あまり健康なほうではないと思う」と「健康でないと思う」の合計比率

<健康感×年齢別>

年齢別でみると、『健康だと思う』は“30～39歳”（70.7%）で最も高く、次いで“20～29歳”（68.6%）、“40～49歳”（64.7%）となっています。また、『健康だと思う』は平成28年度調査と比べて、“20～29歳”で12.2ポイント、“50～59歳”で9.1ポイント、それぞれ減少しています。



- 「非常に健康だと思う」と「健康なほうだと思う」の合計比率
- 「どちらとも言えない」の比率
- 「あまり健康なほうではないと思う」と「健康でないと思う」の合計比率

<健康感×スポーツの実施状況別>

スポーツの実施状況別でみると、『健康だと思う』は“現在も継続的にスポーツをしている”（73.0%）と答えた方で最も高くなっています。一方、“以前も現在もスポーツをしていない”（52.1%）と答えた方では5割を超える程度にとどまっています。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

【現在も継続的に している】	令和2年度(今回)	73.0%	12.3%	14.6%
	平成28年度(前回)	76.3%	10.3%	12.3%
	平成27年度	79.0%	9.9%	11.1%
	平成25年度	75.0%	12.2%	12.8%
	平成24年度	79.9%	9.5%	10.5%
	平成22年度	80.6%	9.8%	9.6%
	平成21年度	79.0%	9.1%	11.9%
	平成19年度	75.5%	10.7%	13.8%
	平成18年度	77.6%	10.1%	12.3%
	平成16年度	75.6%	11.5%	12.9%
平成13年度	79.3%	8.3%	12.4%	
【最近、始めた】	令和2年度(今回)	66.7%	15.6%	17.8%
	平成28年度(前回)	72.3%	10.8%	16.9%
	平成27年度	62.5%	17.2%	20.3%
	平成25年度	63.1%	12.3%	24.6%
	平成24年度	63.8%	12.0%	24.1%
	平成22年度	63.4%	15.5%	21.1%
	平成21年度	68.3%	15.0%	16.7%
	平成19年度	64.9%	15.6%	19.5%
	平成18年度	67.5%	12.5%	20.0%
	平成16年度	73.8%	11.9%	14.3%
平成13年度	66.2%	14.3%	19.5%	
【以前はしていたが、 現在はしていない】	令和2年度(今回)	59.8%	14.1%	26.0%
	平成28年度(前回)	59.5%	15.7%	23.2%
	平成27年度	59.8%	15.8%	24.4%
	平成25年度	61.7%	14.1%	24.1%
	平成24年度	61.7%	13.8%	24.4%
	平成22年度	61.2%	14.7%	24.2%
	平成21年度	63.6%	14.9%	21.5%
	平成19年度	63.3%	15.8%	20.9%
	平成18年度	61.9%	14.8%	23.3%
	平成16年度	62.3%	15.3%	22.5%
平成13年度	64.2%	14.3%	21.5%	
【以前も、現在も していない】	令和2年度(今回)	52.1%	19.2%	28.7%
	平成28年度(前回)	56.2%	14.6%	27.7%
	平成27年度	58.7%	16.1%	25.2%
	平成25年度	58.5%	18.2%	23.2%
	平成24年度	60.8%	13.7%	25.5%
	平成22年度	56.2%	15.6%	28.1%
	平成21年度	55.9%	17.2%	26.9%
	平成19年度	53.8%	18.7%	27.5%
	平成18年度	60.6%	14.9%	24.5%
	平成16年度	60.9%	14.1%	24.9%
平成13年度	57.3%	16.5%	26.2%	

- 「非常に健康だと思う」と「健康なほうだと思う」の合計比率
- 「どちらとも言えない」の比率
- ▣「あまり健康なほうではないと思う」と「健康でないと思う」の合計比率

《指標》

多様な世代と交流する機会のある人の割合

(1) 指標の説明

生きがいを持って暮らせるように、多様な世代と交流する機会のある人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度（評価）」

Q18 (ソ) あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～チの各項目に、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ソ 多様な世代との交流	1	2	3	4	5	6

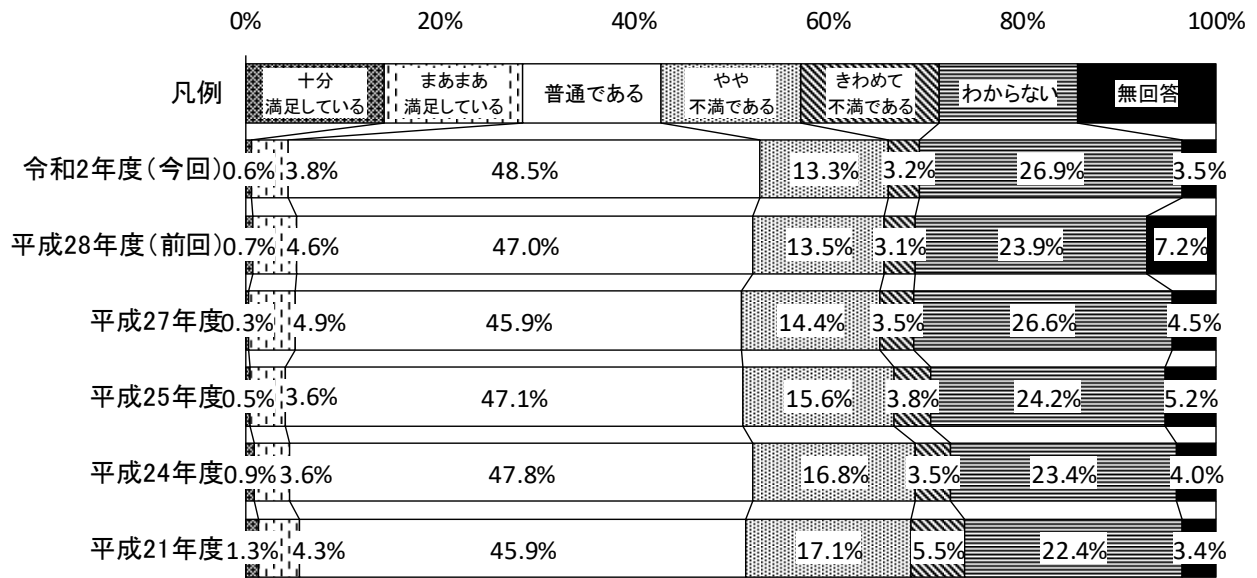
(3) 指標の現状

	平成21年度	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度	令和2年度
十分満足している	1.3%	0.9%	0.5%	0.3%	0.7%	0.6%
まあまあ満足している	4.3%	3.6%	3.6%	4.9%	4.6%	3.8%
計	5.6%	4.5%	4.1%	5.2%	5.3%	4.4%

(4) 指標の分析

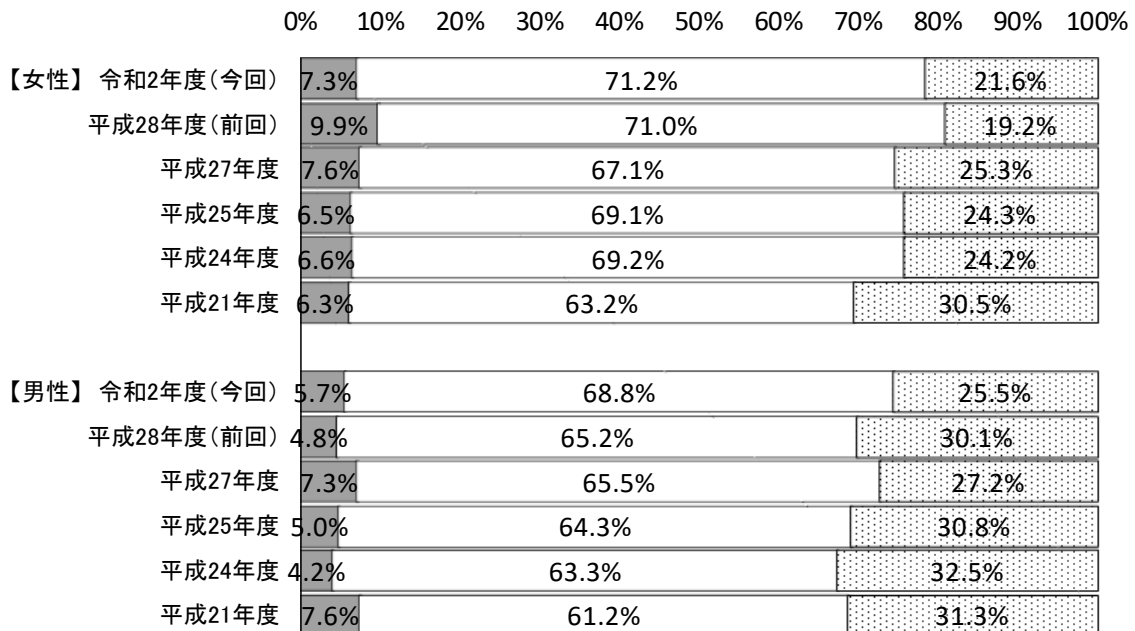
☆多様な世代との交流の満足度は、平成28年度調査と同様に1割未満となっています

多様な世代との交流について、「十分満足している」、「まあまあ満足している」を合わせた『満足している』(4.4%)と答えた方はわずかとなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



<多様な世代との交流×性別>

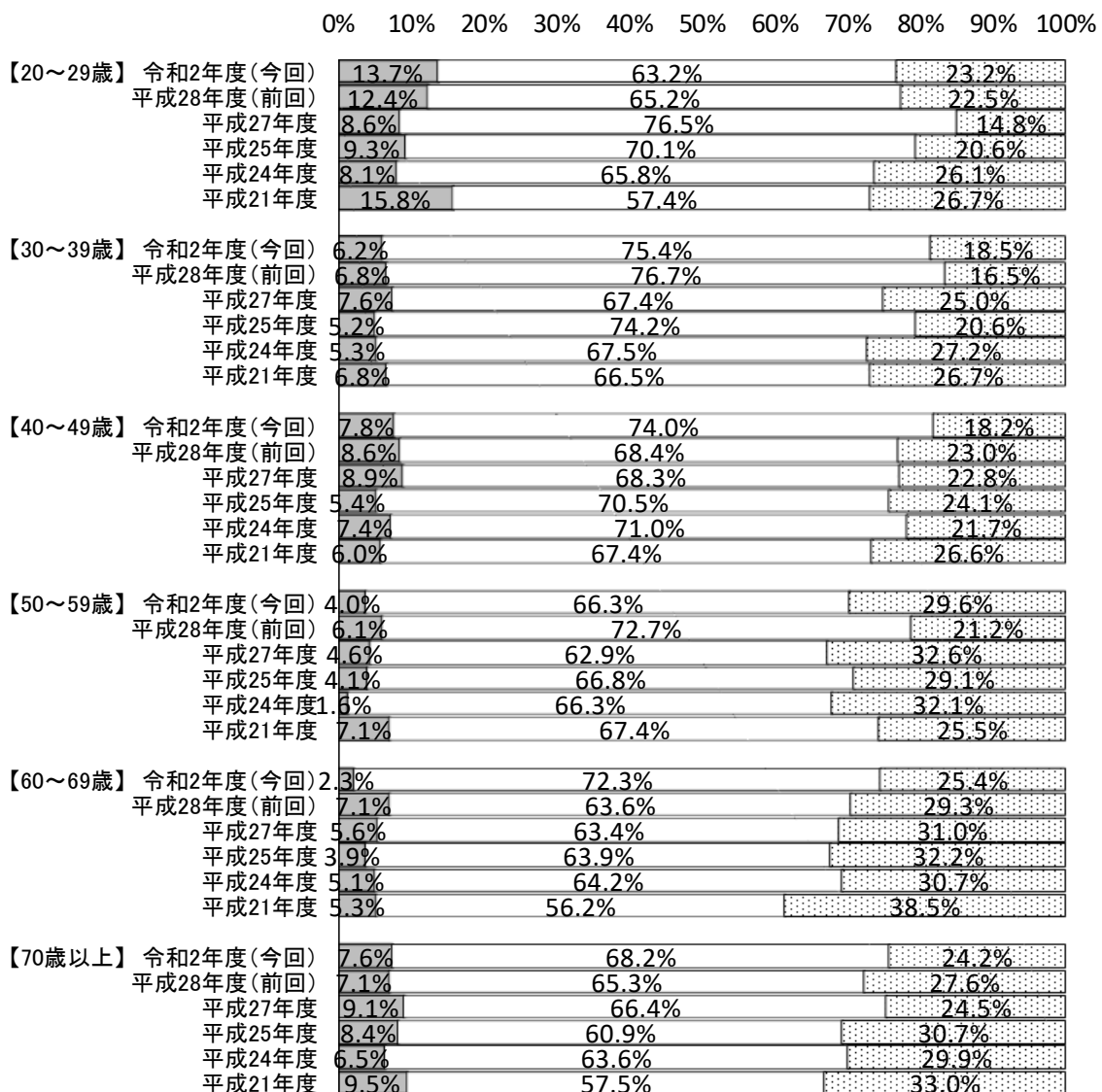
性別でみると、『満足している』は“女性”(7.3%)が“男性”(5.7%)より高くなっています。



- 「十分満足している」と「まあまあ満足している」の合計比率
- 「普通である」の比率
- 「やや不満である」と「きわめて不満である」の合計比率

<多様な世代との交流×年齢別>

年齢別でみると、『満足している』は“20～29歳”（13.7%）で最も高く、次いで“40～49歳”（7.8%）となっています。また、『満足している』は平成28年度調査と比べて“60～69歳”で4.8ポイント減少しています。



- 「十分満足している」と「まあまあ満足している」の合計比率
- 「普通である」の比率
- ▨「やや不満である」と「きわめて不満である」の合計比率

第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第2項 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにします

めざしたい将来像：

市民一人ひとりが、どう生きたいか、どう老いるかを考えて生活を送るようにします。そして、自助・共助・公助を高めて、個人の尊厳を保ちながら生きられ、誰もが自立した生活を安心して送れるまちを実現します。

《指標》

日常生活に対して不安を感じていない人の割合

(1) 指標の説明

社会的・経済的状況による生活保護世帯の増加、万が一のための救急医療体制、高齢化社会の進展による要介護者の増加等、市民を取り巻く社会環境のなかで、日常生活上のセーフティネット（安全網）を確立し、生活する上での安心感を把握する必要があると考えられます。そこで、日常生活に対して不安を感じていない人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により逆説的に聞いています。「個人・態度（認知）」

Q5 あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。次の中から特に気になることがあれば、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 自分の健康 | 8 子どもの将来 |
| 2 家族の健康 | 9 住居や住まい |
| 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 | 10 財産や資産 |
| 4 現在の生活や家計 | 11 人との付き合い |
| 5 将来の生活や家計 | 12 生きがい |
| 6 仕事 | 13 その他（ ） |
| 7 出産や子育て | 14 特にない |

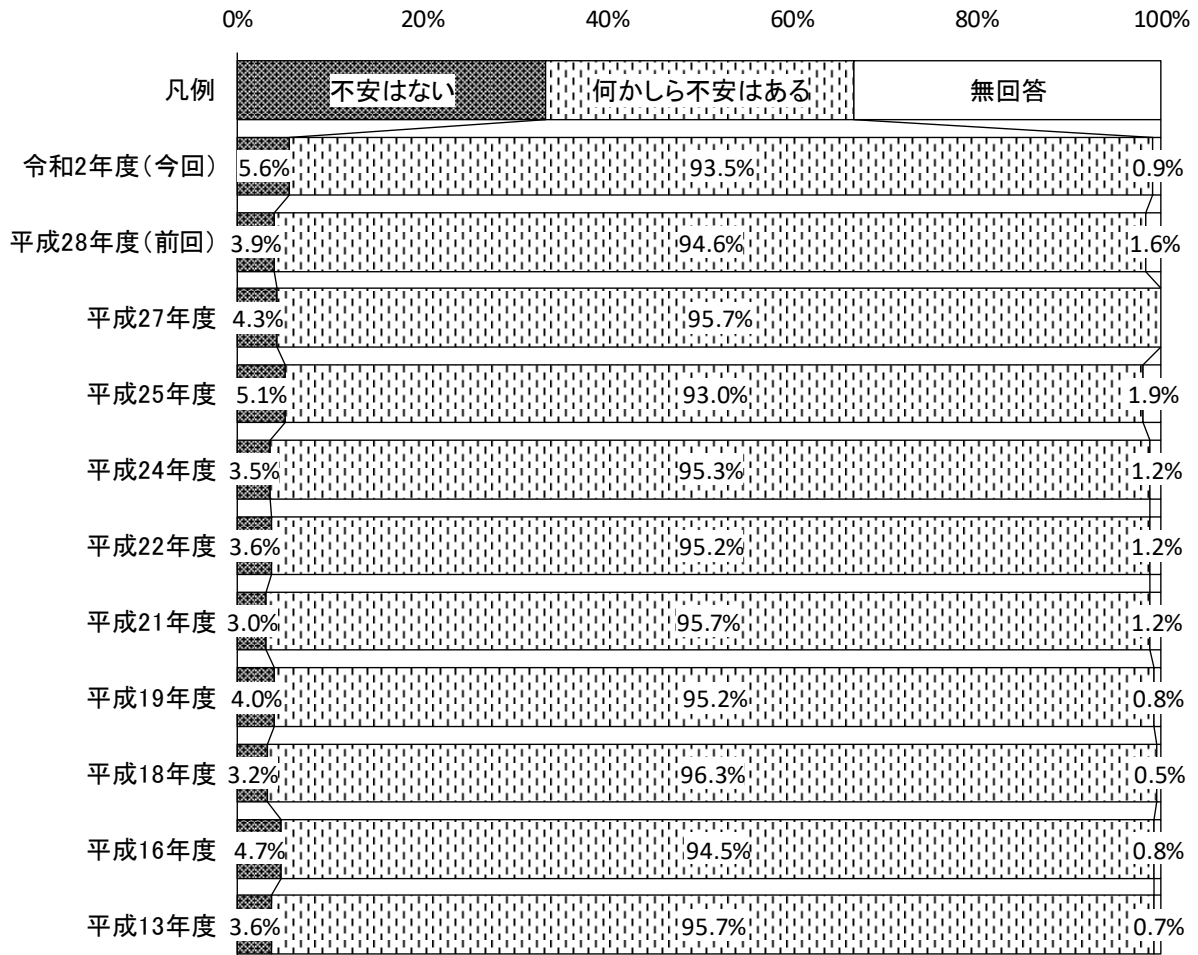
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
不安はない	3.6%	4.7%	3.2%	4.0%	3.0%	3.6%	3.5%	5.1%	4.3%	3.9%	5.6%

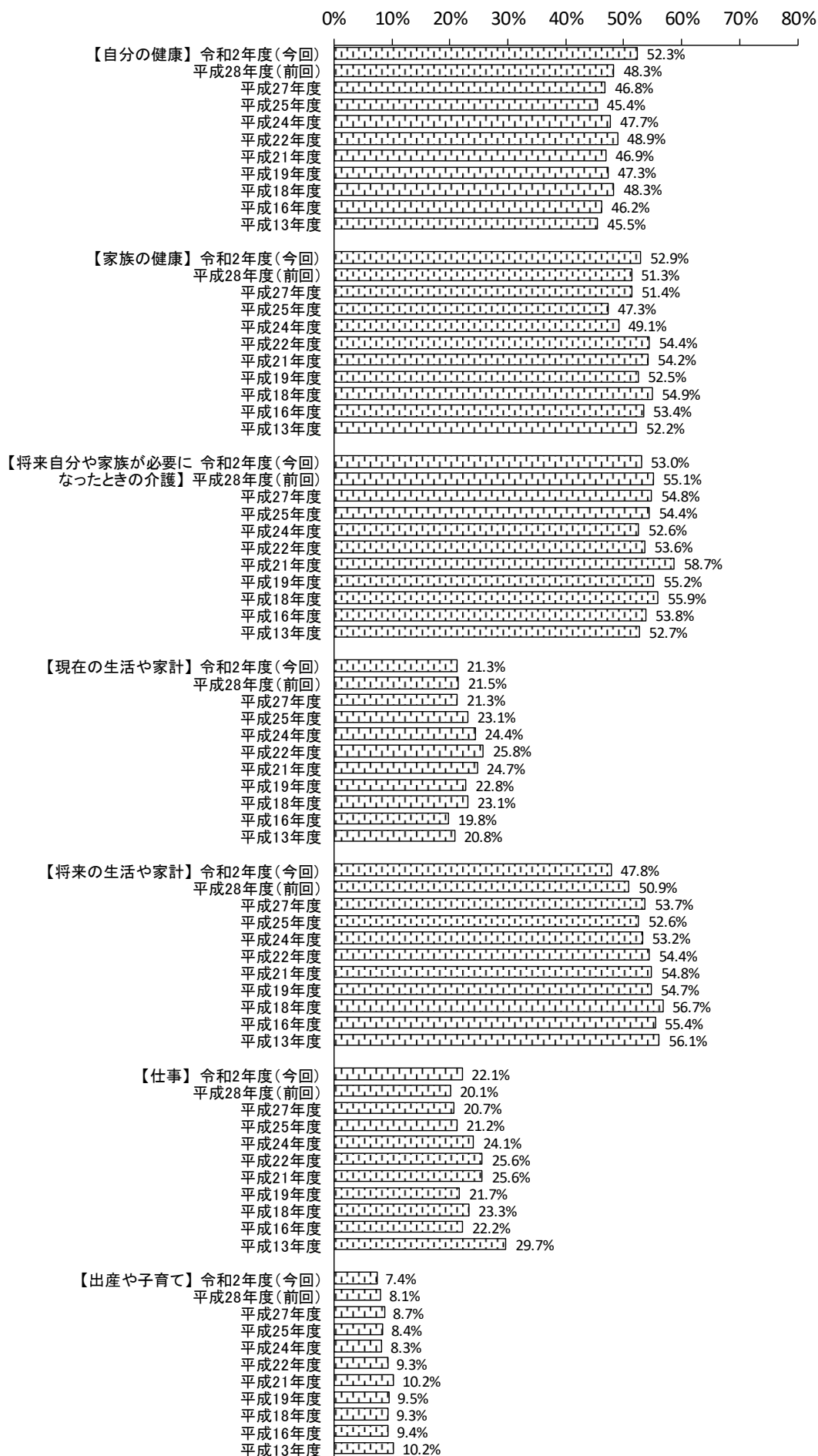
(4) 指標の分析

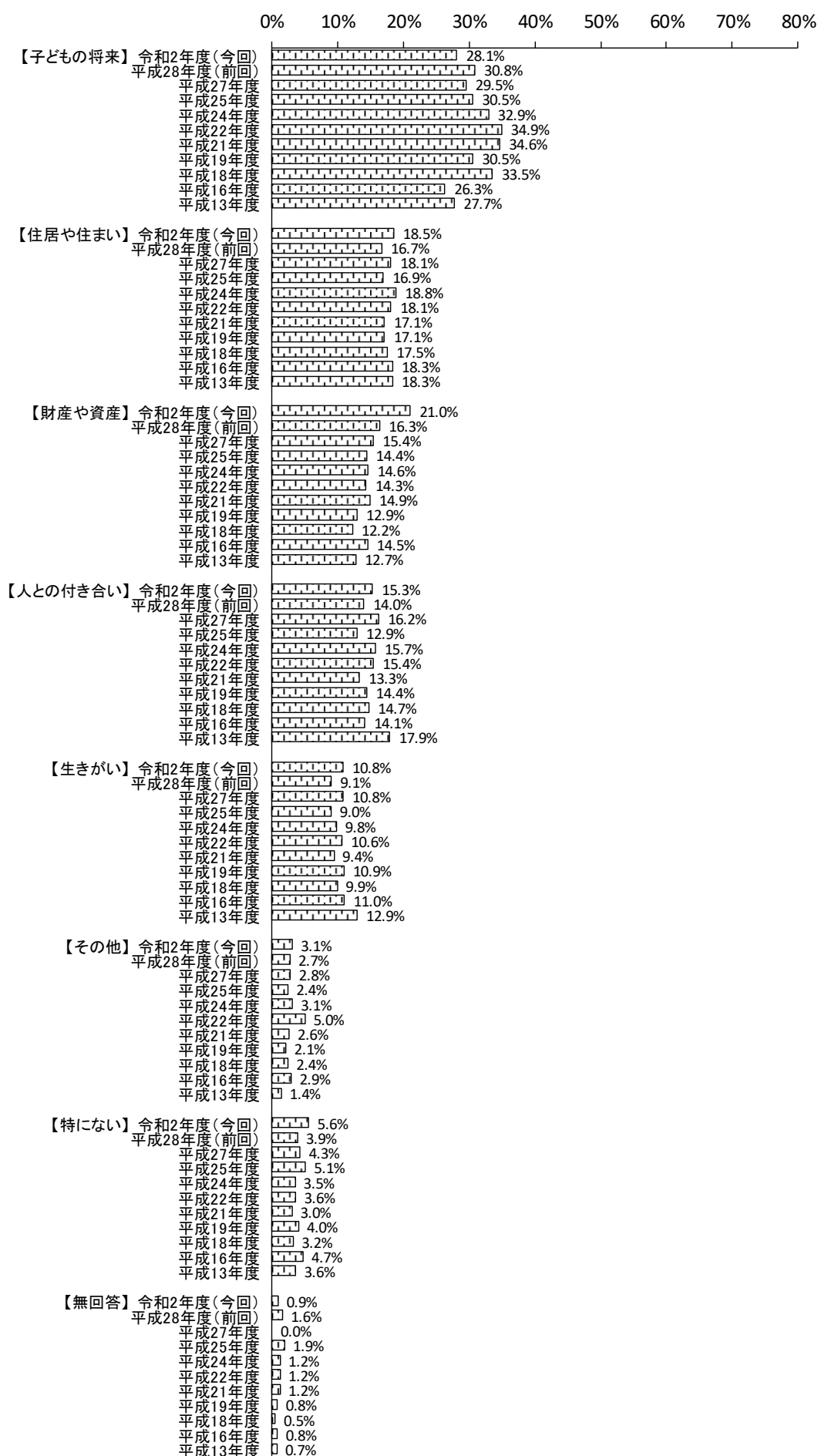
☆日常生活に何かしら不安がある人は9割を超えています

日常生活に「不安はない」(5.6%)と答えた方は1割未満で、「何かしら不安はある」(93.5%)と答えた方が9割を超えており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



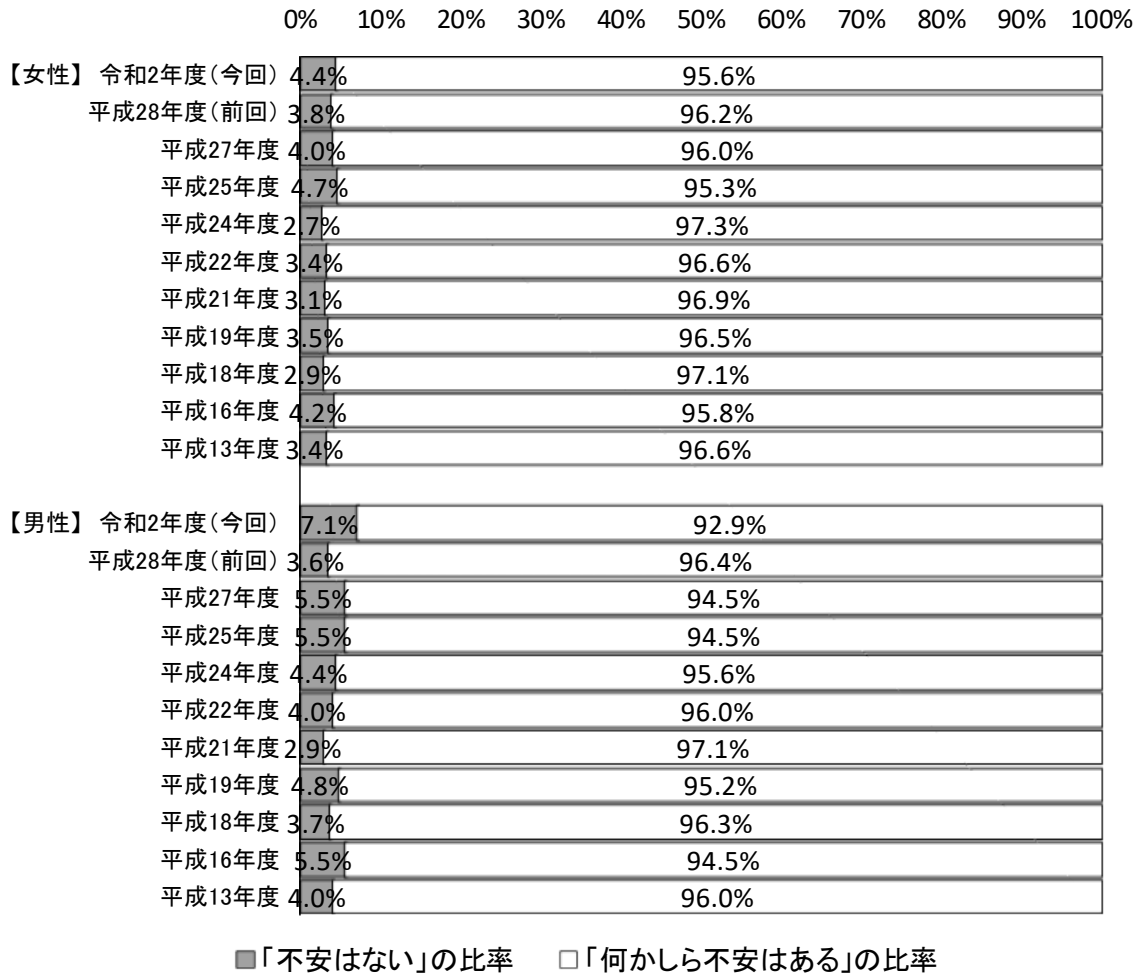
不安や心配なことを具体的にみると、「将来自分や家族が必要になったときの介護」(53.0%) が最も高く、次いで「家族の健康」(52.9%)、「自分の健康」(52.3%) となっており、この3項目が5割を超えています。





<安心感×性別>

性別でみると、「何かしら不安はある」は“女性”（95.6%）が“男性”（92.9%）より高くなっています。



<安心感×年齢別>

年齢別で見ると、「何かしら不安はある」は“50～59歳”（98.1%）で最も高く、次いで“40～49歳”（96.0%）となっています。また、“50～59歳”を除く全ての年代で「何かしら不安はある」は平成28年度調査と比べて減少しています。

		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
【20～29歳】	令和2年度(今回)	8.8%										91.2%
	平成28年度(前回)	3.1%										96.9%
	平成27年度	5.0%										95.0%
	平成25年度	4.5%										95.5%
	平成24年度	3.4%										96.6%
	平成22年度	6.9%										93.1%
	平成21年度	1.9%										98.1%
	平成19年度	3.8%										96.2%
	平成18年度	3.1%										96.9%
	平成16年度	5.0%										95.0%
平成13年度	3.6%										96.4%	
【30～39歳】	令和2年度(今回)	8.9%										91.1%
	平成28年度(前回)	3.3%										96.7%
	平成27年度	3.4%										96.6%
	平成25年度	4.3%										95.7%
	平成24年度	4.1%										95.9%
	平成22年度	3.1%										96.9%
	平成21年度	2.3%										97.7%
	平成19年度	3.2%										96.8%
	平成18年度	3.1%										96.9%
	平成16年度	4.2%										95.8%
平成13年度	3.5%										96.5%	
【40～49歳】	令和2年度(今回)	4.0%										96.0%
	平成28年度(前回)	1.9%										98.1%
	平成27年度	3.0%										97.0%
	平成25年度	2.5%										97.5%
	平成24年度	2.1%										97.9%
	平成22年度	2.5%										97.5%
	平成21年度	1.3%										98.7%
	平成19年度	3.5%										96.5%
	平成18年度	1.6%										98.4%
	平成16年度	3.4%										96.6%
平成13年度	2.4%										97.6%	
【50～59歳】	令和2年度(今回)	1.9%										98.1%
	平成28年度(前回)	4.1%										95.9%
	平成27年度	2.7%										97.3%
	平成25年度	4.3%										95.7%
	平成24年度	2.1%										97.9%
	平成22年度	3.8%										96.2%
	平成21年度	2.1%										97.9%
	平成19年度	3.3%										96.7%
	平成18年度	3.9%										96.1%
	平成16年度	3.6%										96.4%
平成13年度	3.9%										96.1%	
【60～69歳】	令和2年度(今回)	5.8%										94.2%
	平成28年度(前回)	3.4%										96.6%
	平成27年度	5.0%										95.0%
	平成25年度	6.8%										93.2%
	平成24年度	3.8%										96.2%
	平成22年度	3.5%										96.5%
	平成21年度	3.5%										96.5%
	平成19年度	3.9%										96.1%
	平成18年度	2.8%										97.2%
	平成16年度	5.4%										94.6%
平成13年度	3.1%										96.9%	
【70歳以上】	令和2年度(今回)	6.3%										93.7%
	平成28年度(前回)	5.8%										94.2%
	平成27年度	7.0%										93.0%
	平成25年度	7.2%										92.8%
	平成24年度	4.6%										95.4%
	平成22年度	4.0%										96.0%
	平成21年度	6.2%										93.8%
	平成19年度	6.5%										93.5%
	平成18年度	5.1%										94.9%
	平成16年度	7.2%										92.8%
平成13年度	6.7%										93.3%	

■「不安はない」の比率 □「何かしら不安はある」の比率

第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第3項 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにします

めざしたい将来像：

地域ぐるみで子育てを支援し様々なサービスが選択できるようにすることによって、子育てしやすく、子どもの笑顔があふれる街まつどを実現します。

《指標》

子育ての満足度

(1) 指標の説明

子育てしやすく、子どもの笑顔があふれる街にするには、子育て支援体制の充実が最も重要な課題のひとつとなっています。そこで、子育ての満足度を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により出産や子育てに不安や心配がない人の割合を逆説的に取得しています。

「個人・態度（認知）」

Q5 あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。次の中から特に気になることがあれば、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 自分の健康 | 8 子どもの将来 |
| 2 家族の健康 | 9 住居や住まい |
| 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 | 10 財産や資産 |
| 4 現在の生活や家計 | 11 人との付き合い |
| 5 将来の生活や家計 | 12 生きがい |
| 6 仕事 | 13 その他（ ） |
| 7 出産や子育て | 14 特にない |

(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
出産・子育てに 不安はない	89.8%	90.6%	90.6%	90.4%	89.6%	90.6%	91.6%	91.4%	91.3%	91.9%	92.5%

(4) 指標の分析

☆出産や子育てについて不安を感じていない人が9割を超えています

出産や子育てについて不安を感じていない人は9割を超えており、平成13年度調査以降最も高い割合となっています。

